

マイクロ波論文（大学発）特集の発行にあたって



マイクロ波論文（大学発）特集編集委員会

委員長 九鬼 孝夫

マイクロ波論文（大学発）特集は、大学や高等専門学校等の高等教育機関から発信されるマイクロ波技術の論文を集約、掲載することを目的に、2004年12月に初めて発刊された。以来、本特集は和文論文誌C12月の特集として毎年の定番と認められるようになり、今年で6回目の特集を発刊するに至っている。対象分野は、電磁界理論、高周波回路、アンテナ、高周波システム、シミュレーション技術、測定評価技術など、マイクロ波・ミリ波技術を広く網羅している。教育機関でのマイクロ波・ミリ波技術の基礎研究から応用研究に至る優れた研究成果を発掘し、それらを産業界など幅広い世界へ紹介することを目指した特集である。

今回の特集でも、国内の多数の高等教育機関から、マイクロ波・ミリ波の基礎から応用にわたる8編（一般論文5編、ショートノート3編）の投稿論文が掲載されている。これに加え、マイクロ波・ミリ波技術分野の最新トピックスから招待論文2編をお願いし、計10編の論文で構成する特集となった。

ところで、本特集のベースとなっているのは、マイクロ波研究会の「学生研究会」で発表された研究成果である。学生研究会は、学生諸君が自主的にその運営に携わり、かつ自らの研究成果を発表する研究会として、2003年より継続的に開催され、毎年多くの方々が参加している。筆者はこれまでに、この学生研究会を

お手伝いする機会を何回か経験した。そして最近、ここで発表した学生諸君が社会人となって再びマイクロ波・ミリ波の研究開発で活躍している姿を見ることがある。学生研究会更には本特集の「卒業生」たちが、次世代のマイクロ波・ミリ波研究を牽引する人材として育てているという証であり、本特集の継続的な活動成果が、ここに結実してきていると感じた次第である。本特集が、高等教育機関の研究成果を世の中に発信する場として大いに貢献しているとともに、マイクロ波・ミリ波分野での技術研究の継承、人材育成にも役立つことを確信するものであり、ひいては学会の活性化にも寄与すると考えている。

最後に、本特集の発刊にあたり、貴重な研究成果を寄稿して頂いた方々、厳しい日程の中で丁寧に査読頂いた査読委員、企画や取りまとめに御尽力された編集委員やマイクロ波研究会専門委員並びに学会事務局の各位に、心より御礼申し上げます。

九鬼 孝夫（正員） 昭58電通大・電気通信・電波通信卒。昭60同大大学院修士課程了。同年NHK入局。旭川放送局を経て、昭63より放送技術研究所。現在、同研究所放送ネットワーク研究部主任研究員。工博。ELディスプレイ、高周波機能デバイス、マイクロ波ミリ波システムなどの研究に従事。電気学会、映像情報メディア学会、IEEE各会員。

マイクロ波論文（大学発）特集編集委員会

委員長	九鬼 孝夫
幹事	加屋野 博幸・真田 篤志
委員	黒木 太司・古神 義則・篠原 真毅・辻 幹男
	平塚 敏朗・平野 拓一・松永 真由美・森 一富
	山口 良・分島 彰男